

元プロ野球選手の張本勲さんは、日本人選手がアメリカの大リーグへ進出していくことには、常々、反対の立場をとっています。

プロサッカーの長友選手のインテルでの活躍を受けて「じゃあ、サッカー選手がヨーロッパへ行くことはどうですか？」と問われ、「やっぱりわたしは反対です。日本国内でがんばればいいんですよ」と答えていました。

選手は一流選手になると、数億円の年俸を得ています。野球業界自体、日本経済が苦しくなっている中でも繁栄を続けています。いわば、日本の庶民から集まってきたお金で潤っているのに、おそらくこちらのほうが安いという理由で、使用するボールは中国製としてしまっていて良いものでしょうか。

長い間にわたって取引関係を保ってきたボールのメーカーも、今年から使用しませんがよといわれて、やっていけないのでしょうか。彼らの中には、日本プロ野球の強烈なファンも多いはずですよ。

今、100円ショップの商品や衣料品など、とても安い商品が出回っています。消費

者も「安いから助かるわ」と喜んでいることも事実です。しかし一方で、家庭の生活用品を作る仕事に就いている人にとっては、安い外国製品に押しまわられて、仕事が減る、給料は下がる、こどもの就職口は見つからないということになりかねません。

祝い返しや香典返しとして、カタログ販売の本を手にした時、私は無駄な抵抗かもしれないませんが、「日本製はないかなあ」と探しています。コストを安くするため、ほとんどの商品が中国などの外国製で占められており、日本製品を探すのに苦労をします。

自らの生活のコストを下げするため、安い商品を求めることは当然のことです。

しかし、たまには贅沢もする。たまには日本製品をかうとする行為も必要ではないでしょうか。

外国との競争に打ち勝つための努力や技術の革新など、もちろん大切なことです。それとともに、自分の国、自分のふるさとを愛し、みんなが助け合う気持ちを持つことも、これからますます重要になってくると感じています。

人権文化の花を咲かせよう

Vol.104

みんなで一緒に考えてみたいこと

2月5日に第29回鳥羽市人権講演会を商工会議所かもめホールにて開催しました。

講師に「奈良ふらっと市民会議（インターネット上に横行する様々な人権侵害問題の解決に向け活動している市民組織）」代表中野博章さんをお招きし「インターネットと人権」というテーマでお話いただきました。

インターネットや携帯電話が爆発的に普及し、コミュニケーションの輪が広がり、人だけでなく、こどもたち

とってもそれらは身近なツールとなつてきています。

しかしその匿名性、情報発信の容易さから、個人の名誉の侵害、差別を助長する表現や有害情報の掲載など、人権に関わるさまざまな問題が発生しています。

講師自身も活動を始めた頃、ネット上で様々な誹謗・中傷の攻撃を受け、それらに耐えがたいものがあり、疑心暗鬼になりかけたとのことでした。

こういった問題を早急に解決することは極めて難しいと思いますが、法の整備などを進めていくことで、一歩ずつ着実に解決へ向かっていくことが大切です。

そして、人と人とのリアルな関係を築いていくこと、ネット上の情報は100%確実ではないことを伝えていくことも今後は重要であると感じました。

また、ネット上などで誹謗・中傷を見つけれられましたら、人権・生活係へご連絡ください。